

# 令和2年度決算の概要



三木市 Miki City

# 目次

---

- 1 一般会計の決算総括
- 2 一般会計の決算内訳
- 3 一般会計の主な取り組み
- 4 一般会計の市債残高と基金残高の推移
- 5 財政健全化指標
- 6 特別会計の決算
- 7 企業会計の決算

(参考1) 北播磨総合医療センター企業団の決算

(参考2) 新型コロナウイルス感染症対策事業

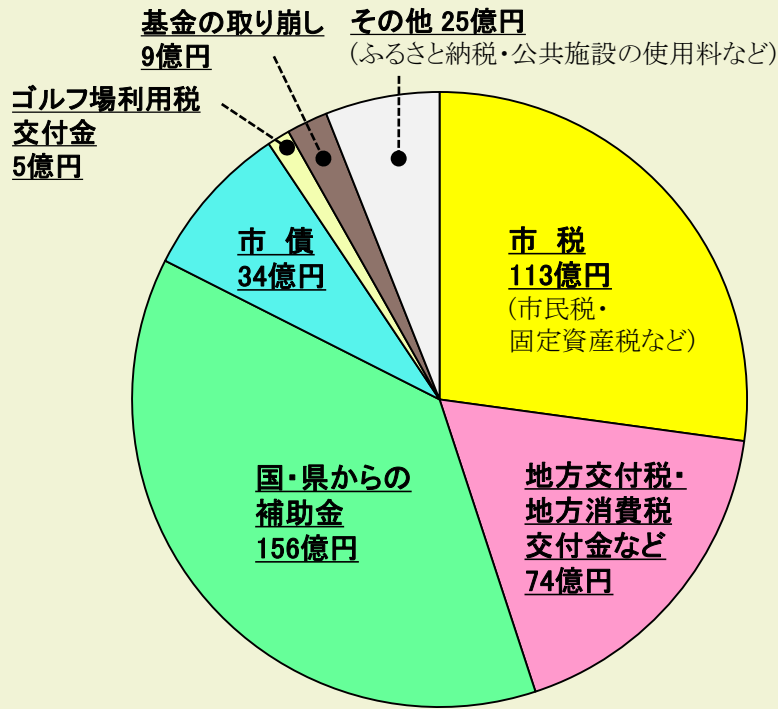
# 1 一般会計の決算総括

- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて1人当たり10万円の国の特別定額給付金の支給、小・中・特別支援学校の児童・生徒への1人1台のタブレットの整備、事業者への事業継続支援金や家賃支援金等の支給、子育て世帯やひとり親世帯への臨時特別給付金の支給など様々な対策を実施したことにより、収入・支出ともに過去最大の規模となり、前年度に比べて収入は88.2億円、支出は86.9億円の増加となった。
- 一般会計の決算見込のうち、収入と支出の差引額は2.7億円であり、翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質的な収支は9千万円の黒字となった。

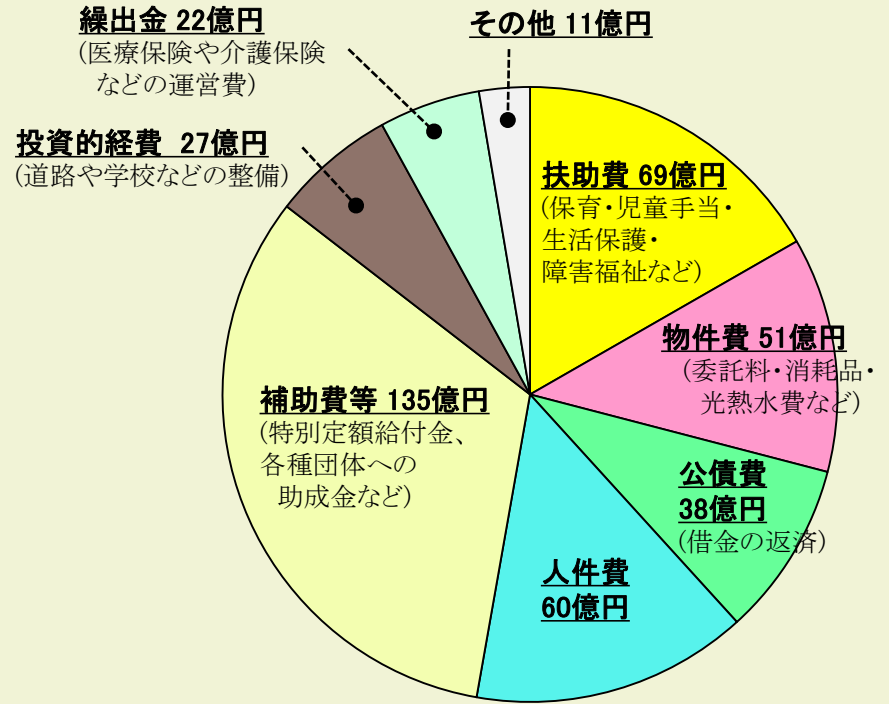
区 分	令和2年度 決 算 額 A	令和元年度 決 算 額 B	増 減 額 (A - B)
収 入 額 ①	415億5,533万円	327億3,007万円	88億2,526万円
(うち基金繰入額)	(9.1億円)	(7.0億円)	(2.1億円)
支 出 額 ②	412億7,939万円	325億8,852万円	86億9,087万円
収支差引額 (① - ②) ③	2億7,594万円	1億4,155万円	1億3,439万円
翌年度へ繰り越す財源 ④	1億8,535万円	1億1,815万円	6,720万円
実質収支額 (③ - ④) ⑤	9,059万円	2,340万円	6,719万円

# 2 一般会計の決算内訳

## 歳入(416億円)



## 歳出(413億円)



### 決算の特徴

- 市税収入は、法人税割の税率引き下げや、土地の評価替え、新型コロナウイルスの影響を受けた事業者の納税猶予などにより、前年度より1.8億円減少。
- 国・県からの補助金は、特別定額給付金交付補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などにより、前年度より88億円増加。
- ふるさと納税寄附金は、前年度に比べて9千万円増加し、過去最高の5億円となった。

- 補助費等は、1人当たり10万円の国の特別定額給付金の支給などにより、前年度より79億円増加。
- 会計年度任用職員制度への移行に伴い、非常勤職員に係る費用が物件費から人件費に変更となったため、人件費が前年度より14億円増加。

# 3 一般会計の主な取り組み

○ 令和2年度における一般会計の主な取り組みを紹介します。

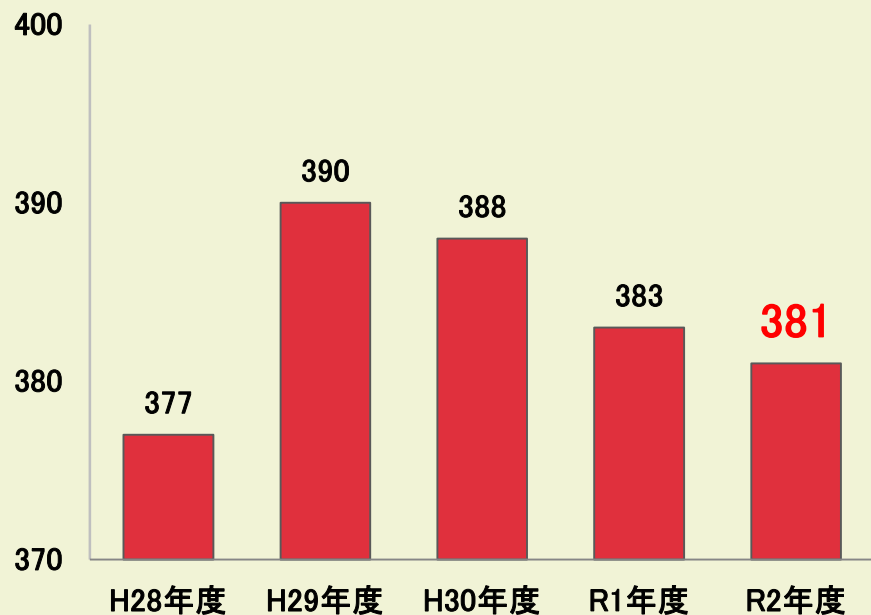
取組内容（新型コロナ対策）	事業費	取組内容	事業費
1人当たり10万円の特別定額給付金の支給	77億円	NET119 <sup>(※)</sup> や三者間同時通訳に対応した高機能消防指令システムへの更新	3億5千万円
子育て世帯やひとり親世帯への臨時特別給付金などの支給	2億1千万円	防災情報マップの更新やため池ハザードマップの作成、緊急通知システムの整備、避難所への電源供給用に電気自動車を配備など防災力の強化	3千万円
小・中・特別支援学校の児童・生徒に1人1台のタブレットを整備	3億8千万円	支援が必要と思われる子どもとその保護者を対象とした親子発達支援教室の開催	1千万円
中小企業などへの事業継続支援金や家賃支援給付金などの支給	3億5千万円	イノシシやアライグマなどの有害鳥獣対策の実施	5千万円
市独自のみっきいとくとく・マイナポイントの付与	6千万円	吉川小学校と緑が丘中学校への学校統合に向けた環境整備	4千万円
テイクアウト応援チケットの発行など	4千万円	神戸電鉄の昼間時間帯の増便費用の負担、三木駅駅舎の設計の実施など	9千万円
市内の商店街などで利用できるお買い物券などの発行	3千万円	吉川町・緑が丘町公民館の空調更新等、吉川健康福祉センターの空調更新	2億1千万円
山田錦などの酒造好適米の生産者への支援金の支給	8千万円	三木山総合公園野球場の防球ネットの設置、スコアボードのリニューアルなど	1億円
		全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会を市内で開催	2千万円

※NET119 聴覚や言語に障がいのある方がスマートフォンなどを利用して簡単な操作で通報することができる緊急通報システム

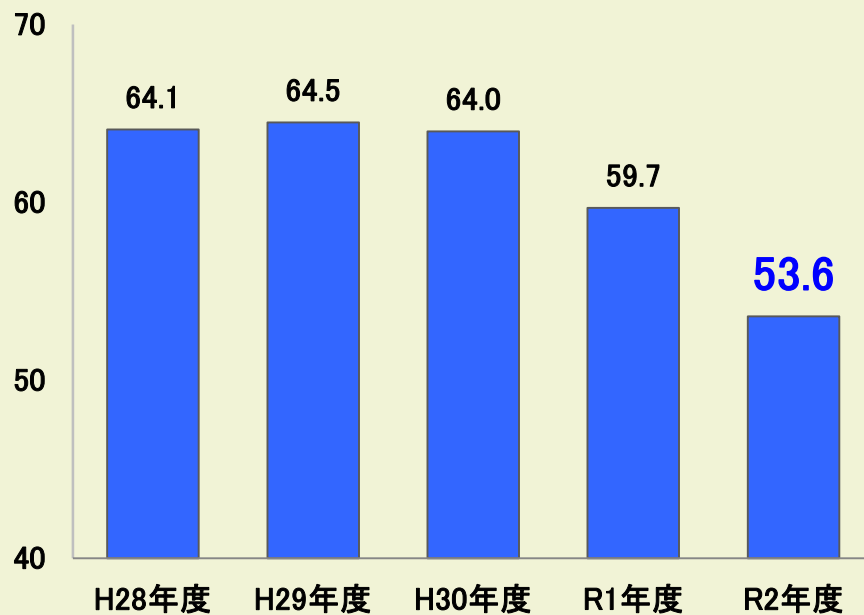
# 4 一般会計の市債残高と基金残高の推移

- 市債の残高は、新型コロナウイルス感染症による税・交付金の減収に対応するため、減収補填債や猶予特例債を発行したことなどから、新しく発行した市債の額は前年度より増加したが、過去に発行した市債の償還額を下回ったため2億円減少し、381億円となった。
- 基金の残高は、前年度決算の黒字額やふるさと納税寄附金など3億円を積み立てる一方、各種事業への活用や収支不足を補うためなど9.1億円を取り崩したことにより前年度より6.1億円減少し、53.6億円となった。

市債残高（単位：億円）



基金残高（単位：億円）



# 5 財政健全化指標

- 実質赤字比率・連結実質赤字比率は、黒字決算のため該当なし。
- 実質公債費比率は3.5%であり、前年度から0.4%悪化。
- 将来負担比率は39.6%であり、前年度から0.4%改善。
- 経常収支比率は、人件費や公債費の増加などにより0.5%悪化。

(単位：%)

区 分	三 木 市			国の定める基準値	
	令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	差 引 (A-B)	早期健全化 基準	財政再生 基準
実 質 赤 字 比 率	—	—	—	12.55	20.00
連 結 実 質 赤 字 比 率	—	—	—	17.55	30.00
実 質 公 債 費 比 率 ( 3 か 年 平 均 )	3.5	3.1	+ 0.4	25.0	35.0
将 来 負 担 比 率	39.6	40.0	△ 0.4	350.0	
経 常 収 支 比 率	94.7	94.2	+ 0.5		

「—」は、黒字決算のため該当なし

# 6 特別会計の決算

- 特別会計は、国民健康保険特別会計をのぞく全会計が黒字決算
- 国民健康保険特別会計は、保険加入者数の減少や、他市に比べて税率を低く抑えているため収入が不足し、2.9億円の赤字（不足分は翌年度予算を繰り上げて補てん）
- 介護保険特別会計は、介護予防に向けた取り組みを進めたことなどで、計画よりも介護給付費の伸びが抑えられたため、1.2億円の黒字

区 分	令和2年度決算					(参考) 令和元年度 実質収支額
	収入額 (A)	支出額 (B)	収支差引額 (C=A-B)	翌年度へ 繰り越す財源 (D)	実質収支額 (E=C-D)	
国民健康保険	89億5,609万円	92億4,173万円	△ 2億8,564万円	0	△ 2億8,564万円	△1億9,741万円
介護保険	71億1,163万円	69億8,955万円	1億2,208万円	0	1億2,208万円	1億6,591万円
後期高齢者医療事業	14億1,918万円	13億8,766万円	3,152万円	0	3,152万円	2,788万円
学校給食事業	2億7,052万円	2億6,893万円	159万円	0	159万円	15万円



# 7 企業会計の決算

- 水道事業会計は、新型コロナウイルス感染症対策としての水道料金減免により給水収益が減少したことから、当年度純損益は8千万円の赤字（前年度は2.9億円の黒字）
- 下水道事業会計は、施設の修繕費が減少したことや、市債残高の減少にともなって利息の支払いが減少したことなどにより、当年度純損益は前年度より1千万円多い2億円の黒字

区 分		令和2年度			(参考) 令和元年度 収支額
		収入額 (A)	支出額 (B)	収支額 (C=A-B)	
水道事業	収益的収支	13億1,200万円	13億8,959万円	△ 7,759万円	2億9,392万円
	資本的収支	1億4,191万円	5億1,654万円	△ 3億7,463万円	△ 2億9,852万円
下水道事業	収益的収支	24億7,415万円	22億6,968万円	2億 447万円	1億9,451万円
	資本的収支	14億2,430万円	22億8,640万円	△ 8億6,210万円	△ 7億9,926万円

(金額は税抜き)

# (参考 1) 北播磨総合医療センター企業団の決算

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、感染症対策による診療制限や患者の受診控え等のため、経常損益は4.6億円、純損益は4.5億円の赤字となった。
- 常勤医師の着任に伴う「放射線治療センター」の設置に加え、入退院支援や患者相談支援の充実のため「患者総合サポートセンター」を設置し、積極的な診療活動に取り組んだ。

区 分	令和 2年度 (A)	令和 元年度 (B)	増 減 (A-B)
病院事業収益	172.1億円	171.7億円	0.4億円
うち入院収益	100.7億円	103.9億円	△ 3.2億円
うち外来収益	42.6億円	40.9億円	1.7億円
病院事業費用	176.6億円	173.2億円	3.4億円
うち職員給与費	75.4億円	71.8億円	3.6億円
うち材料費	46.7億円	47.6億円	△ 0.9億円
経常損益	△ 4.6億円	△ 1.4億円	△ 3.2億円
純 損 益	△ 4.5億円	△ 1.6億円	△ 2.9億円

項 目		令和 2年度 (A)	令和 元年度 (B)	増 減 (A-B)
入院	患者数 (1日当たり)	349人	382人	△ 33人
	平均単価	78,982円	74,380円	4,602円
外来	患者数 (1日当たり)	1,006人	1,036人	△ 30人
	平均単価	17,441円	16,457円	984円
内部留保資金		1.4億円	4.2億円	△2.8億円

(数値は税抜き)

# (参考2) 新型コロナウイルス感染症対策事業

## 【一般会計】

(単位：千円)

分類	事業費	財源内訳					主な事業
		国・県補助金	うち臨時交付金	地方債	その他	一般財源	
経済対策・事業者支援	651,305	651,305	611,492	0	0	0	中小企業事業継続支援給付金・家賃支援金、みつきいとくとくマイナポイント、山田錦等酒造好適米生産継続支援金 など
教育環境整備等	523,219	517,143	288,213	5,600	476	0	オンライン学習環境の整備、夏休みの給食費無償、スクールバスの臨時運行、修学旅行のバス増便支援、就学援助の要件緩和 など
子育て支援	213,957	192,437	30,147	0	0	21,520	子育て世帯への臨時特別給付金、ひとり親世帯への臨時特別給付金、新生児特別定額給付金、児童扶養手当受給世帯への緊急支援給付金 など
生活支援	7,774,954	7,759,679	2,329	0	0	15,275	特別定額給付金、障害福祉サービスや住居確保給付金の増額 など
感染拡大防止	77,697	64,427	37,819	7,100	2,419	3,751	ワクチン接種体制の確保、スマート窓口の導入、避難所のコロナ対策備品購入、消毒用品購入 など
合計	9,241,132	9,184,991	970,000	12,700	2,895	40,546	

## 【特別会計・企業会計】

(単位：千円)

分類	会計	事業費 (減免額)	財源内訳 (減免に対する支援等)					主な事業
			国・県補助金	うち臨時交付金	地方債	その他	一般財源	
生活支援	国保	(※) 22,366	22,366	0	0	0	0	保険税の減免
		20	20	0	0	0	0	傷病手当金の支給
	介護 (※) 2,093	2,093	0	0	0	0	保険料の減免	
	後期 (※) 978							保険料の減免 (減収分は広域連合に補助金が交付されるため、財源内訳は空欄としている。)
	水道 (※) 466,191	139,798	0	0	0	326,393	水道料金の半年間減免 (国・県補助金は兵庫県企業庁からの受水費の減免額。一般財源は減免額を差し引いた水道事業会計の実質負担額。)	
合計		491,648	164,277	0	0	0	326,393	

※減免については収入の減少額を事業費として計上。